

ネットワーク整備計画

六ヶ所村教育委員会

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
十分なネットワーク速度が確保できている学校数と総学校数に占める割合	2校 28.5%	4校 57.1%	7校 100.0%	7校 100.0%	7校 100.0%
アセスメント実施有無	無	無	無	無	無

現在、村立小中学校は有線LANと無線LANの2系統が整備されており、1人1台端末は学習系として整備した無線LAN接続のもと活用されている。

令和2年度に整備した学習系ネットワークは、各学校から1Gbpsのベストエフォート回線を経由し、1Gbpsのベストエフォート回線に集約され、インターネットに接続されている。

しかし、遅延が頻繁に発生する状況となったため、令和4年度に、タブレット端末の全ての通信をインターネットに直接接続する方法（ローカルブレイクアウト）に切り替えたことで、改善が見られた。

しかし、デジタル教科書の使用を想定した場合、インターネット速度の低下が懸念されるため十分なネットワーク速度を確保できるとは言えない状況にある。

（アセスメントにより明らかとなった課題）

（課題解決の方法・予定）

（備考）

ネットワーク機器の老朽化が課題であり、アクセスポイントの更新などで対応を検討していることから、アセスメントは実施していない。

校務DX計画

六ヶ所村教育委員会

村立小中学校では、1人1台端末を活用した会議や研修資料のペーパーレス化の実施、クラウドツールを利用したアンケート調査や、メールシステムを利用し保護者との連絡を行うなど、校務DXを推進してきた。

一方で、校務支援システムの運用を、職員室に固定された校務用端末からのアクセスを前提として行っており、柔軟な働き方が求められている現状にはそぐわない状況であるため、パブリッククラウド型校務支援システムへの更改を検討する。

また、学習系と校務系のネットワークが分離されている状況であり、データ連携が困難な状況である。

これらの課題を解決するため、ゼロトラストの考え方に基づくセキュリティ対策を講じた上で、学習系ネットワークと校務系のネットワークの統合を図る。

【校務DX化推進過程】

- ①校務支援システムの更改
- ②学習系と校務系のネットワークの統合
- ③ゼロトラストの考え方に基づくセキュリティ対策

この他、教育委員会から押印を求めている書類や紙媒体での提出を求めている書類があり、ペーパーレス化の妨げとなっている。押印の見直しを行い、学校のペーパーレス化を進めることで、校務の効率化を図る。

1人1台端末の利活用に係る計画

六ヶ所村教育委員会

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

- (1) 「六ヶ所村版情報活用能力の段階表」をもとに、情報活用能力の向上を図るとともに、ICTを積極的に活用し、全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協同的な学びを一体的に充実し、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。
- (2) 不登校、病気療養、障がい、日本語指導を要すること、あるいは特定分野に特異な才能を有することなどにより特別な支援が必要な児童生徒に対するきめ細やかな支援、さらには個々の才能を伸ばすための高度な学びの機会の提供、遠隔地の児童生徒との多様な学びの機会の提供等に、ICTの持つ特性を最大限活用する。
- (3) 情報社会や情報手段の特性を理解し、安全かつ適切に情報手段を使うことによってよりよい情報社会を創ろうとする知識と態度を習得し、情報モラルの向上を目指す。

2. GIGA第1期の総括

GIGAスクール構想の下、村立小中学校においても国庫補助金等を活用し、校内通信ネットワークや1人1台端末の整備、大型提示装置の更新を行い、学校におけるICT環境の充実を図ってきた。

学習用端末については、令和2年度に国庫補助金（公立学校情報機器整備費補助金）を活用し、1人1台端末の整備を完了した。

令和2年度に教室への無線LAN整備及び電源キャビネットの整備を実施したほか、校内通信ネットワークのためのインターネット回線（1Gbpsベストエフォート）を整備し、学習用無線LANの運用を開始した。

ICT環境が整備され、授業で活用される機会が増加したが、通信量の増大により通信環境が不安定で、速度が十分に確保されない場面が多くみられるようになった。安定した通信環境を確保するため、ローカルブレイクアウトを導入し、通信環境の整備を行った。

また、デジタル教材を整備し、児童生徒が主体的に学習に取り組むことのできる環境や情報モラルについて学習できる環境を整備した。

しかし、デジタル教科書の使用を想定した場合、ネットワーク速度の低下が懸念されることから、デジタル教科書を使用した場合でも安定的に利用できる通信環境を整備する必要がある。

3. 1人1台端末の利活用方策

1人1台端末については、計画的な維持・更新に取り組む。また、学校通信環境については、端末を活用した学びの妨げとならないよう、安定した通信環境の確保を目指す。

また、ゼロトラストの考え方に基づいたセキュリティ対策を講じた上で、学習系ネットワークと校務系ネットワークの統合やクラウドツールの積極的な活用を推進する。

個別最適・協働的な学びの充実に向け、協同作業支援用コミュニケーションソフトやタブレットドリル、クラウドツールの活用を推進する。

端末持ち帰りによる家庭学習の工夫の取り組みを通して、学校と家庭双方におけるICT活用を推進するとともに、遠隔教育システムやデジタル教材の活用を推進し、在宅学習が可能な環境を整備することで、教室での学習が困難な児童生徒の学習機会を確保する。